

日本分析化学会九州支部 2017年度 第1回常任幹事会

日時：平成29年6月17日(土) 13時30分～14時45分

場所：熊本大学 仮設校舎D棟2階 会議室B

出席者(敬称略・順不同)：、戸田 敬(支部長)、高椋 利幸(次期支部長)、井倉 則之(副支部長)、大平 慎一(庶務幹事)、田中 明(会計幹事)、竹中 繁織(監査)、肥後 盛秀(理事)、石川 洋哉(常任幹事)、大島 達也(常任幹事)、川上 健次(常任幹事)、神崎 亮(常任幹事)、宗 伸明(常任幹事/Anal. Sci. 編集委員)、中山 守雄(常任幹事)、原田 明(常任幹事)、吉田 秀幸(常任幹事)、富安 卓滋(ぶんせき編集委員)

議題(担当者)

会議に先立ち、各人が自己紹介を行った。

1 報告事項

1) 本部・支部連絡会議(戸田支部長)

5月27日(土)に龍谷大学での第77回分析化学討論会の昼食時間に開催された本部・支部連絡会議について報告された。

岡田会長より、学会の改革、効率化を進めていくこと、また、スクラップ&ビルドのスクラップについても躊躇しないこと、会員数は2年前6200名から現在5900名程度に減少していること、財政的には、キャッシュフローは安定化したことが示された旨、報告された。

・第79回討論会は、九州支部の担当である。次回、幹事会において開催場所を議論する。

2) 理事会(肥後理事)

5月9日(火)開催の定時総会および第2回理事会について、報告された。

定時総会については、会員数の推移(平成29年度2月末現在5888.5名)、理事・監事の選任、平成28年度決算報告ならびに平成29年度の予算案が提示された(財政状況は改善)。

第2回理事会については、平成29年度会長をはじめとする執行理事の選任ならびに理事の役割分担が示された。

3) 日本化学会分析化学ディビジョン会議(戸田支部長)

5月28日(日)に龍谷大学での第77回分析化学討論会の昼食時間に開催された日本化学会分析化学ディビジョン会議について報告された。

2018年3月の日本化学会春季年会(日大理工学部)において、分析化学ディビジョン主催のアジア国際シンポジウム(アジア及び国内の若手研究者によるシンポジウム)が「界面およびナノ空間の(を利用した)分析化学」をテーマとして開催される。候補者の推薦が依頼された。

日本化学会春季年会における申込み区分の変更、「原子・分子スペクトル分析」と「レーザー分光分析」をまとめて、「分光分析(Spectrometric Analysis)」とし、「界面分析(Interfacial Analysis)」の削除が報告された。

日本化学会の組織図、分析化学ディビジョンの運営規程、会員のディビジョン登録順位別登録状況が示された。

4) 九州分析化学若手の会（大平庶務幹事）

春の講演会

5月13日(土)に北九州国際会議場において開催された第30回九州分析化学若手の会春の講演会について、世話人の佐藤先生（九州工業大学）より提出された事業完了報告書の説明がなされた。参加総数は56名であり、盛会にて終了した。

夏季セミナー

7月28日(金)～29日(土)に福岡県朝倉市の原鶴温泉ホテルパーレンス小野屋にて開催予定の第35回九州分析化学若手の会夏季セミナーについて、世話人の梅木先生（佐賀大学）より提出された資料について、説明がなされた。参加の呼びかけがなされた（6月30日の締切）。

なお、予算については春の講演会と夏季セミナー合わせて50万円をお願いしたい。

5) 分析化学講習会（竹中実行委員長）

8月8日(火)～10日(木)に九州大学伊都キャンパス・福岡市産学連携センター・福岡大学理学部において、竹中実行委員長（九州工業大学）の下で開催予定の第58回分析化学講習会について説明がなされ、情報交換会の実施について検討していること、現在の申込数が20名程度であることが報告された。例年通り、参加者は50名程度ではないかとのコメントがなされた。また、今年から実行委員会に参加している分析NEXTについて、質問・回答がなされた。

6) 各誌編集委員会

Analytical Sciences（宗編集委員）

1月30日(月)にテレビ会議にて開催された2016年度第6回編集委員会、3月28日(火)に開催された本年度の第1回の新旧引継編集委員会および、5月28日(日)に開催された第2回編集委員会について、提出された編集委員会の議事録を用いて説明がなされた。それぞれの編集委員会時点における投稿論文数が報告された（2016年度749件、2015年度672件）。次に、2018年1月の特集号「Paper fluidic devices」のタイトル締切6月30日であること、2019年1月にX線に関する特集号が予定されていることが報告された。また、科研費「国際情報発信」の採択を受けて、編集委員会内でワーキンググループが作られて課題に取り組んでいることが報告された。

ぶんせき（富安編集委員）

3月16日(木)に開催された編集委員会の議事録を用いて説明がなされた。現在、4月末脱稿の話題、6月末脱稿のとびら、トピックスが九州支部の先生方に依頼されていることが報告された。

分析化学（大平庶務幹事）

3月14日(火)に開催された編集委員会について提出された編集委員会の議事録を用いて説明がなされた。年間特集のテーマ、2017年「光」、2018年「膜」が紹介された。また、藪下編集委員から、背表紙を入れるためには月8報以上必要であり、投稿をお願いする旨の伝言が、原田常任幹事から報告された。

7) 第 54 回化学関連支部合同九州大会（大平庶務幹事）

7月1日(土)に北九州国際会議場にて開催予定の標記大会について、本年度は電気化学会九州支部が担当であることが報告された。

当支部からは、依頼講演として高椋先生（佐賀大学）、座長を竹中先生（九州工大）、にお願いしていることが報告された。また、九州分析化学ポスター賞の審査を8名の先生方に依頼していることが報告され、了承された。ポスター賞対象件数が47件であった。

8) 機器分析ワークショップ（川上常任幹事）

5月24日(水)に機器分析ワークショップが長崎大学において、中山理事のもと、(株)ジェイ・サイエンス西日本の協賛で開催され、参加者が35名であったことが報告された。

また、5月16日(火)～17日(水)に新技術インハウスセミナーとして、「ICP-MS用気体試料導入システムによる実試料の測定」が熊本大学において開催され、熊本市内、阿蘇登山道や温泉の噴気孔付近でサンプリングした試料の分析結果についても報告された。

9) 第66年会の実行委員（連絡委員）の推薦について（戸田支部長）

日本分析化学会第66年会について、実行委員会との連絡委員の依頼があり、井倉副支部長に依頼したことが報告された。

10) その他

特になし

2 審議事項

1) 支部役員の変更（大平庶務幹事）

幹事について、4名の新任、1社の担当者の変更が説明され、承認された。

また、3名の幹事の退任が承認された。この際、すでに退職された先生方が幹事となっていることから、参与とすることを希望するかどうかの確認、他の方についても情報提供の依頼がなされた。

2) 九州分析化学学会賞及び奨励賞（高椋選考委員長）

6月3日(土)に熊本大学において、8名の選考委員により奨励賞候補者2名と学会賞候補者1名の選考会が行われた。奨励賞の選考は15分の発表と10分の質疑応答、学会賞は書類選考により行われた。審議の結果、いずれの候補者も満場一致で受賞対象者とすることが選考委員会において決定された旨、報告された。また、常任幹事会においても承認された。

3) 共催・協賛事業（大平庶務幹事）

12月2日(土)～3日(日)に開催予定の日本中性子科学会第17回年会の共催依頼が山口幹事（福岡大学理学部）より提出されており、本件を承認した。共催金は通例に従い30,000円とする。

4) 支部幹事会・講演会・見学会（戸田支部長）

本年度の幹事会を11月17日（金）に1日で行うことが提案され、承認された。また、会場およびスケジュールの案が示された。見学会の会場である堀場グループ、(株)堀場エステックについて説明がなされた。

5) その他

役員名簿（大平庶務幹事）

6月17日現在の役員名簿が配布され、確認がなされた。

以上